

課題構想・概要

課題名 「SARS 制圧に向けた国際共同戦略」

代表者名 「笹月健彦」

中核機関名 「国立国際医療センター」

課題の目標・概要

1. 目的：先般アジアを中心に流行した SARS 感染症は、人間活動の国際化に伴い、当該国だけでなく我が国を初め世界中の人々を不安に陥れ、経済的にも大きな負担が強いられた。ベトナムにおける院内感染症制御において我が国が果たした役割は究めて大きく、今後も日本がこの感染制御における中心的な役割を果たすことが期待されている。本研究では中国との綿密な連携のもとに診断・治療・予防法の開発を行い、世界の人々を SARS から守るということにより国際貢献することを目指す。そのため研究計画の立案、研究戦略の討議、研究の分担、人材の交流、研究資材の交換などにつき、充分の協議を重ね、目的の達成を期する。
2. 内容：中国との綿密な連携のもとに治療・予防法の開発を行う。具体的には、ヒト型中和抗体の作成、キラーT細胞誘導型ペプチド開発および抗ウイルス薬の開発を目指す。
3. 政府間合意等との関係：平成 15 年 10 月にインドネシア・バリで開催された ASEAN 会議時の日中韓首脳会談の席で、SARS に関する共同研究を行うことが合意されている（日中韓三国間協力の促進に関する共同宣言）。さらに 5 月のサンクトペテルブルグで行われた日中首脳会談（小泉・胡会談）や、6 月のエビアンサミットにおいても G8（保健に関する G8 行動計画）が SARS 対策に関する協力に取り組むことが決定されている。
4. 複数機関間連携の必要性：SARS 制圧のためには、複数の戦略を同時に進行させることが必須である。
5. 機動的対応の必要性：感染制御対策が急務であること、感染が局地に限局せず、すぐさま全世界に蔓延する可能性を有しているため、早急な対応が必要である。
6. 推進委員会を構成する機関・組織等：委員会は、国立国際医療センターを中心として東北大学、東京大学医科学研究所、東京医科歯科大学、熊本大学、久留米大学、キリンビール株式会社からなる。
7. なお科学振興調整費で SARS 関連研究が平成 15 年にサポートされているが、研究内容は重複しない。SARS ウイルス検査法・鑑別診断法に関しては、緊急研究で実施されているものとは研究方法が異なり、本研究は発展性のあるものと考えられる。

諸外国の現状等

1. 現状：理想的な大量処理可能な迅速診断システムの開発はいまだ行われておらず、ワクチン開発も開始されたばかりである。
2. 我が国の水準：ウイルス蛋白質及びリコンビナント蛋白質が調整されている。ウイルス蛋白質の抗原エピトープに関する情報が蓄積されつつあり、ヒト型抗体を作成するための抗原情報は整っている。ヒト型抗体産生マウスおよびウシが開発されている。

課題の実施により期待される効果

国際医療協力を通じて、特に世界中の人々に脅威を与える SARS 制圧に関してリーダーシップを発揮し、世界の国々と共存してゆく国の姿勢が各国に示されることは、我が国に対する国際的な信頼を得る上で重要である。また、SARS 感染症による経済的損失を阻止することが可能となり、アジア各国の経済的な安定も期待される。さらに、医学生物学研究全般における日中の緊密な協力関係の推進に資する。

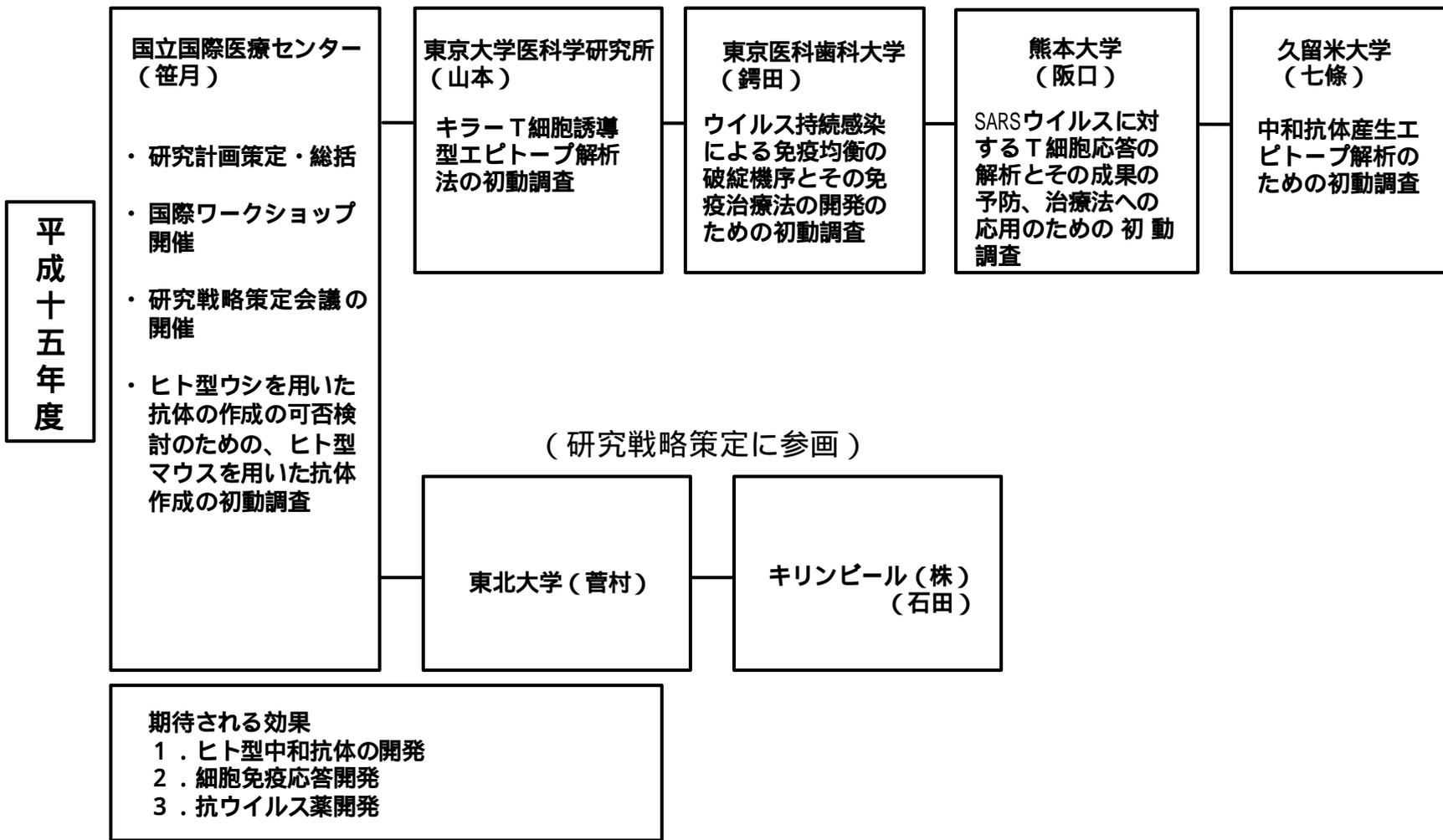
課題実施体制

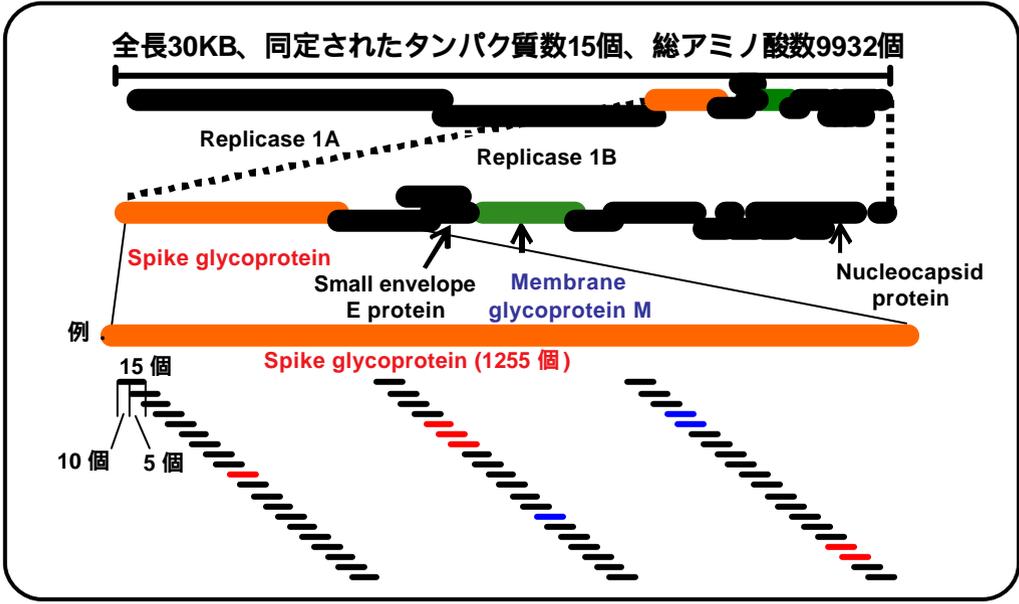
課題名「SARS制圧に向けた国際共同戦略」

代表者名「笹月健彦」

中核機関名「国立国際医療センター」

課題名「SARS制圧に向けた国際共同戦略」





エピトープ解析

国立国際医療センター

SARS患者血清 — , SARS医療従事者血清 — , 健常者血清

情報提供

中和抗体誘導

T細胞誘導

ヒト型中和抗体開発

抗体検出キット

抗原検出キット

抗ウイルス薬

重症化・不顕性感染の分子機構

東北大
久留米大

東京大
熊本大

キリン

東京医歯大
熊本大

戦略会議・初動調査

エピソード解析

国立国際医療
センター

情報提供

中和抗体
誘導

T細胞
誘導

ヒト型中和
抗体開発

抗体検出
キット

抗原検出
キット

抗ウイルス薬

重症化・不顕性
感染の分子機構

東北大
久留米大

東京大
熊本大

キリン

東京医歯大
熊本大

戦略会議・初動調査

